

第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画策定に係る
第2回計画策定部会（食の安全安心）議事概要

- 1 開催日時： 平成24年10月18日（木）14：00～16：00
- 2 場 所： ウェルパルクまもと 4階 401会議室 AB
- 3 出席委員
江藤晶、北川和喜、木村彰宏、清田賢治、小山和作、谷口憲治、永吉景子、
林田祐典、松高博、山中康博（五十音順・敬称略）
- 4 健康福祉子ども局食品保健課長挨拶
- 5 議事録（要旨）
議事進行（小山会長）
平成24年度熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート結果(成果指標
の状況等、食の安全安心)について食品保健課から報告説明
第2次熊本市食の安全安心・食育推進計画（素案）のうち「食の安全安心」
に係る部分を中心に食品保健課から説明

～策定委員からの意見～

- ・ 第2次計画の成果指標について、第1次計画で「食の安全性」に関する実績が向上しているのに対して「食の安心感」に関する指標はあまり向上していない。安全な食品提供もしくは安全性確認の実績を『準じる指標』として記入してもらいたい。 [谷口委員]
- ・ 食に限らず安全の上に安心がついてくるものであるが、「食の安心感」に関する指標が改善しない理由の1つとして、近年不安な情報に過敏に反応する方々が多いのかもしれない。人間の心理として不安に敏感であるのに対し、幸福感には鈍感である。安全情報の積み重ねは安心感につながる。 [小山会長]
- ・ 指標「食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合」が減少している点については、食の安心感が向上しているとも読み取ることができる。不安感に関するアンケートも、何をもって安心とするか、不安とするかが聞き方(設問文章)で変わるかもしれない。 [永吉委員]

- ・ 報道機関としても、食の安全に関する取り組みの紹介はしなければなら
ないと認識している。 [木村委員]
- ・ 食に関する違反や事件に対する対策や調査など安全情報の結果公表を行
政機関で迅速に行うことは安心材料になりえる。不安材料に対する安心(安
全)情報の提供不足が不安感増大の一因かもしれない。 [山中委員]
- ・ 大型スーパーでは表示がされているのに対して、小型販売店ではまだま
だ進んでいないと思われる。安心できる店作りのために「適正な表示」を
行う取り組みへの支援を行ってほしい。 [北川委員]
- ・ JA の生産部会では、耕種防除が進み、農薬使用量は減少している。生
産履歴の記帳・公表・帳簿監査も進んでいると思っている。畜産農家でも
作業に関するチェックリストが完備されている。食の安全については、こ
れからも積極的にアピールしなければと思っている。 [清田委員]
- ・ 田崎市場では、主要農薬の残留農薬簡易検査を年間 400 検体くらい実施
している。実施 4 年目となるが、違反事例はなく、検出事例は全体の 100
分の 1 くらい。農薬使用基準で収穫前日散布可能なものも多く、検出事例
の遡り調査でも使用濃度や散布時期間違いが多い。 [谷口委員]
- ・ 安心感を向上させるためには、市民との情報共有の上で安全知識の蓄積
をしてもらい、各人が適切な安全基準をもってもらうことが必要。
[江藤委員]
- ・ 食品添加物使用なしの食品製造を依頼されることもあるが、製造に使用
不可欠な添加物もある。安全性が確認された添加物については、使用して
も問題ないことを認識してもらい取り組みは継続して必要。有益な部分や
安全ないき値を認識してもらい取り組みを [北川委員・小山会長]
- ・ 食の安全性をアピールするために、庁内観光振興部門を入れることも 1
つの手法と思われる。 [林田委員]
- ・ 養殖魚をはじめ、生産現場を視察されると安全性を認識される方が多い。
生産現場を含めて食の安全をアピールすることが安心感アップにつながる

と思われる。 [松高委員]

- ・ 小規模店舗では相対説明のよさもアピールすべき。食べ方アピールも安心感の一助になりうる。 [北川委員]
- ・ 安全情報を知らないことが不安感増大の一因。また、アクションプランにある安全安心体験事業ではその後のフォローアップがないともったいないと感じる。レベルアップさせるための継続的な働きかけが必要。
[永吉委員]
- ・ 若年者の食に関する関心が薄い傾向が気になる。健康な生活のため、食育とあわせ、食の安全安心に関する取り組みを推進していく必要がある。
[江藤委員・小山会長]
- ・ 外部から来訪する旅行者は、食に関する関心が非常に高いと感じている。熊本市の「食の安全安心」、「おいしい水」をアピール、旅行者を引き込む仕掛けが必要と思う。 [林田委員・小山会長]
- ・ マイナス面（不安）情報より、プラス面（安全）情報を積極的に提供することにより「食の安全安心」向上に取り組みねばならないと思う。 [小山会長]